

熱海 海の見える病院
2025 年に向けた対応方針
(参考資料)

2023 年 6 月策定

【熱海 海の見える病院の基本情報】

医療機関名：熱海 海の見える病院

開設主体：医療法人社団伊豆七海会

所在地：〒413-0033 静岡県熱海市熱海字上ノ山 1843-1

許可病床数：112 床

(病床の種別)

一般病床 76 床、療養病床 36 床

(病床機能別)

障害者施設等入院基本料（一般）76 床

療養病棟入院基本料（療養）23 床

地域包括ケア入院医療管理料（療養）13 床

稼働病床数：112 床

(病床の種別)

一般病床 76 床、療養病床 36 床

(病床機能別)

障害者施設等入院基本料（一般）76 床

療養病棟入院基本料（療養）23 床

地域包括ケア入院医療管理料（療養）13 床

診療科目：内科、腫瘍内科、腎臓内科、人工透析内科、リハビリテーション科

職員数：185 名（常勤 140 名、非常勤 45 名）

(内訳)

医師：21 名（常勤 4 名、非常勤 17 名）

看護職員：103 名（常勤 80 名、非常勤 23 名）

※看護師、准看護師、介護福祉士、看護補助者、歯科衛生士など

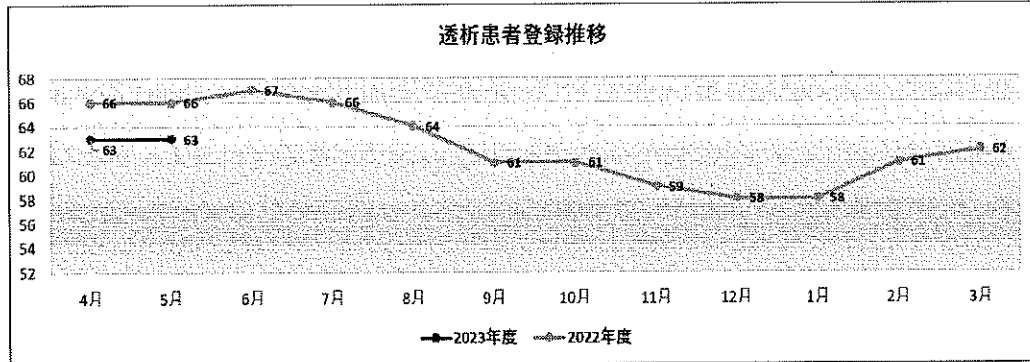
医療技術職員：45 名（常勤 43 名、非常勤 2 名）

※薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、診療放射線技師

臨床検査技師、管理栄養士、社会福祉士など

事務職員：16 名（常勤 13 名、非常勤 3 名）

・透析登録患者推移



2023年度	63	63										
2022年度	66	66	67	66	64	61	61	59	58	58	61	62
前年対比	-3	-3										

■自施設の特徴

・人工透析

透析室にベッド18床（1日2クール）計36名の受入体制であったが2022年8月より病棟透析体制（4名分）を構築し、外来透析4名増加可能となり受入人数を40名まで増加させております。また、通院が困難な方が多数いる事から熱海、真鶴、湯河原方面の送迎対応を行っております。

・リハビリテーション

急性期病床や在宅医療の後方支援病院として慢性期の病院ではあるがリハビリテーションセラピストを手厚く配置し、在宅復帰や介護施設へ退院の促進をしております。ベッドを回転させることで急性期の病床を空けることができ、地域の救急医療の一助を担っております。その他、長期入院や看取り対応の方へもリハビリテーションの提供を通じ安全で安楽な入院生活を過ごしていただいております。

・地域包括ケア病床（13床）

60日間という入院期間の制限はあるが、疾患等の制限はなく在宅からレスパイト入院を中心に受入を行っております。リハビリテーションの提供期限が終了した方へもリハビリテーションを継続して提供でき在宅復帰をさせる機能を担っております。

・訪問リハビリテーション事業と在宅療養支援病院

在宅で安心して生活ができるよう在宅医療クリニックと連携し、訪問リハビリテーション事業を2022年3月より開始しております。在宅療養支援病院としてもクリニックと連携を図っております。

■他医療機関との連携

急性期や回復期機能を有する保険医療機関とは、同法人の熱海所記念病院、国際医療福祉大学熱海病院を筆頭に、熱海市以外（県内外含む）の公立病院や大学病院、私立病院から多数紹介を頂いております。また、在宅診療を主に行っているクリニックとも連携し、地域包括ケアシステム的一端を担うべく日々連携をしています。

当院の勤務医では対応できない皮膚科や耳鼻科、歯科についても他の医療機関の医師やスタッフにきていただき、専門的診断や治療をしていただいております。

② 自施設の課題

■地域包括ケア病床4床拡大（13床→18床）について

2022年10月から4床拡大（2022年7月地域医療構想調整会議にて承認済み）を予定しておりましたが、職員（看護師とMSW）の不足から拡大を延期しています。特に在宅等へつなげる調整を担うMSWの不足は深刻であり、早急な採用が必要も人材がいなく採用に苦戦しております。

■病床稼働

人員不足（特に看護職員）により、入院受入に影響を来しています。看護師の勤務人数により入院受入日の調整が必要であり、急性期や在宅からの求めに迅速に対応が出来ていません。迅速に対応できるように人員補充が必要です。

【2. 今後の方針】

① 地域における今後担うべき役割

- ・市内及び市外の慢性期病棟対応で医療依存度の高い長期入院及び看取りの患者様の受入や在宅等への復帰を目指す患者の受入をすることで、圏域外への患者様流出を減らします。
- ・透析患者様を積極的に受入していきます（入院・外来問わず）
- ・急性期医療治療後でかつ在宅等へ戻る準備が整っていない患者様や日々介護を行っているご家族のレスパイトを目的とした入院の受入をします。

② 今後持つべき病床機能

在宅等へ復帰を目指す方に則した病床運営を目的に地域包括ケア病床の更なる拡大は、地域包括ケアシステムを推進させる観点と地域ニーズに応えるものと考えます。

③ その他見直すべき点

2018年に策定した対応方針において、療養病床を地域包括ケア病床へ転換し回復期的な機能を果たし対応する事が望ましいと考えておりましたが、実際には医療依存度が高く、在宅や介護系施設での生活が厳しい方のご相談も多くいただいている事から、ある程度の療養病床の確保は必要であると感じております。

そのため、体制が整いしだい既にご承認いただいている4床の拡大は実施させていただきますが、その後の拡大については今後の熱海伊東診療圏内における療養病床へのニーズを見ながら適切に判断していく必要があると考えております。

④ 新興感染症への対応

病床機能及び病院の構造から、感染者の入院受入は厳しいと判断しております。また自院で発生した場合においては、軽症であればベッドコントロールにて個室隔離またはコホート隔離をして診療を継続するが、中等症以上の場合、急性期医療を提供する医療機関へ転院をお願いすることになります。十分な療養期間を経たのち継続して入院が必要な方の受入（下り搬送）については積極的に受入いたします。

⑤ 医師の働き方改革について

診療従事勤務医の時間外労働に関する分類は一般の労働者と同程度である960時間が上限の「A水準」となります。

日当直業務においては、他院勤務医の先生からフリーランスの医師に就いていただいております。救急指定病院ではないため急患の受入対応等がなく、常態としてほとんど労働することがなく断続的な業務となっております。2024年以降も各先生方に制限なく勤務が継続できるよう今年度中に「医療機関における宿日直許可」の申請を予定しております。

【3. 具体的な計画】

① 4機能ごとの病床のあり方について
〈今後の方針〉

	現 在		2025 年度
高度急性期	0 床	→	0 床
急性期	0 床		0 床
回復期	13 床		17 床
慢性期	99 床		95 床
(合計)	112 床		112 床

※具体的な方針及び計画については前述の【今後の方針①～③】の通り

- ② 診療科の見直しはございません
- ③ その他の数値目標は特にございません。

【4. その他】

特にございません。

